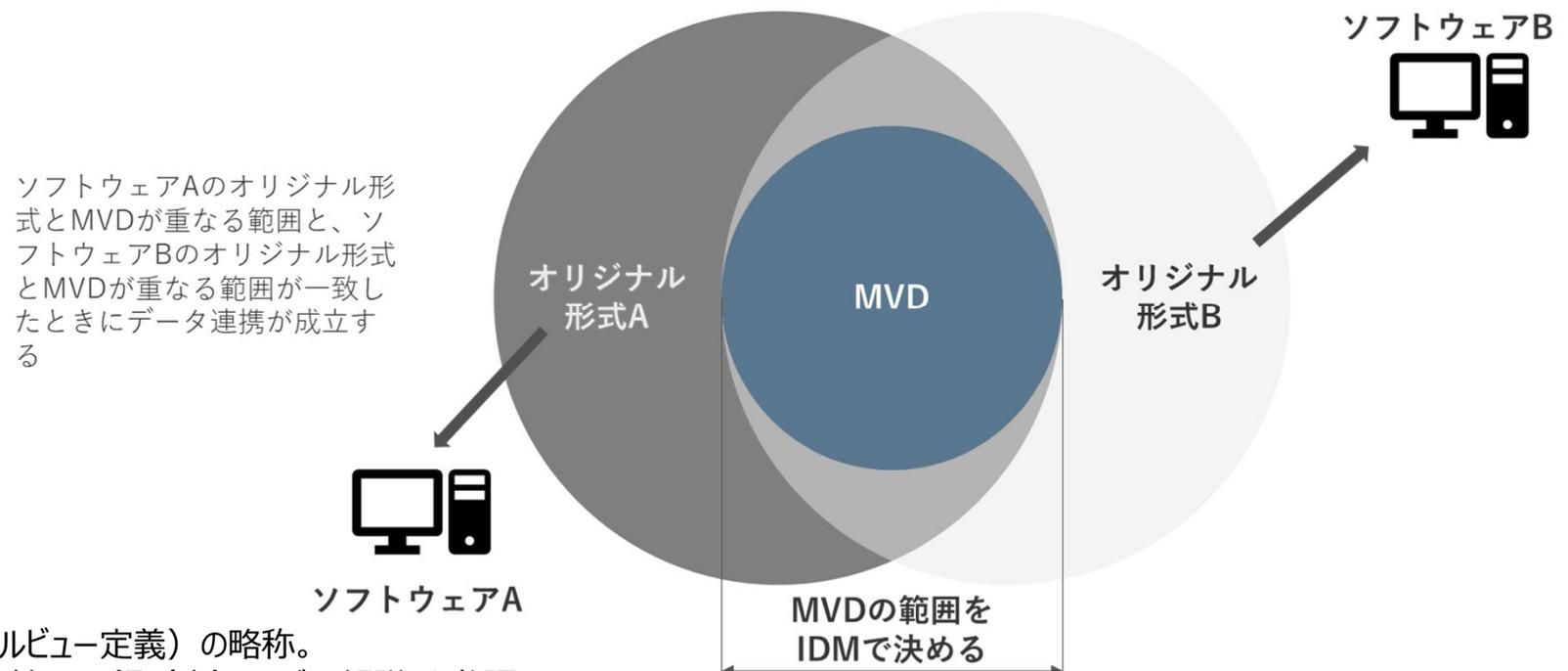


オリジナル形式とIFC形式の関係について

- 異なるソフトウェア間のオリジナル形式のデータ同士は、情報交換されるとは限らない。
- しかし、後工程におけるBIM/CIM活用のためには、情報を適切に引き継ぐ必要がある。そのため、IFC形式が用いられる。
- 異なるソフトウェア間のオリジナル形式のデータは、IFC形式を経由することで情報交換される。(ただし、IFC検定において確認したMVD※¹の範囲に限られる。)
- 国土交通省の直轄事業において、構造物モデルについては「IFC2×3及びオリジナルファイル」の納品※²を求めている。

ソフトウェア間のデータ連携



※1 : Model View Definition (モデルビュー定義) の略称。

※2 : 詳細は「BIM/CIMモデル等電子納品要領(案)及び同解説」を参照。

【参考】IFC形式、IFC検定について

- buildingSMART Japanを含むbuildingSMART Internationalが策定を進めてきた3次元モデルのデータ形式の「IFC」は、2013年に国際標準(ISO16739:2013)として仕様書が発行され、オープンなBIMデータ連携の手段として世界各地で活用されている。
- 我が国においてbSJが行うIFC検定は、IFCデータ連携の技術的仕様を国際IFC認証の枠組みに合わせて明文化し、IFCデータ連携の技術的内容を客観的に確認できる仕組みの構築を目指して実施するものである。
- 検定対象となるソフトウェアは、BIMデータ連携シナリオとIDM(Information Delivery Manual)を基にしたMVD(Model View Definition)に対応する必要がある。
- MVDに従って、オリジナル形式のデータはIFC形式を經由して情報交換される。

